

## 29-0397

多発性硬化症における髄液および血清中 MBP と抗 MBP 抗体測定 of 診断学的意義について

○春井 満知子<sup>1</sup>, 越智 まどか<sup>1</sup>, 藤波 綾<sup>1</sup>, 市村 俊子<sup>2</sup>, 太田 潔江<sup>2</sup>, 松井 真<sup>2</sup>, 斎田 孝彦<sup>2</sup>, 太田 光熙<sup>1</sup> (<sup>1</sup>神戸薬大, <sup>2</sup>独立行政法人国立病院機構宇多野病院)

【目的】 ミエリン膜構成蛋白の1つ MBP (myelin basic protein) は, 実験的アレルギー性脳脊髄炎 (EAE) の起炎物質として最もよく研究されており, 多発性硬化症 (Multiple Sclerosis:MS) との関連で注目されている. MS 患者の髄液中には MBP が増加することが知られていることより, 本研究では, 新しく作製した MBP 抗体を用い, MS 患者の髄液中, 血清中 MBP 量および抗 MBP 抗体価を MS の増悪期, 寛解期で測定し, その診断学的意義を検討した.

【対象と方法】 MS および他の神経疾患患者を対象に検討した. 髄液中, 血清中 MBP 量は, サンドイッチ ELISA 法で, 抗 MBP 抗体価は <sup>125</sup>I-proG を用いた RIA 法で測定した. MBP 測定系はヒト MBP の部分ペプチドおよびウシ由来 MBP を抗原として抗体を作製し, これを用いて ELISA 法を構築した.

【結果】 確立した MBP 測定系は検出感度 31pg/mL, 測定範囲 31-2000pg/mL であった. 本法を用いて MBP 量を測定したところ, 髄液中 MBP 量と病態活動性 (髄液中の浸潤単核細胞数をマーカーとする) の間に相関がみられ, MBP 量が病像を表す指標となることが示された. さらに MS 患者個々の症例について経時変化を長期観察することで臨床病態との対応が一層確認された. 同時に測定した抗 MBP 抗体価は, 一部の患者にのみ陽性を示し, 疾患活動性とは直接の相関がみられなかった.

【考察】 MBP は MS 病像の進行経過を方向付けるうえで重要な役割を果たす可能性が示唆された. 抗 MBP 抗体価と病型との関係については, 今後の研究課題である.